

## 主張

### 医の倫理を語るには、過去の非人道的行為を隠蔽してはならない

4月12日、京都市で開かれた日本医学会総会の期日に合わせて、「医の倫理—過去・現在・未来—企画実行委員会」主催で、「歴史を踏まえた日本の医の倫理の課題」と題するシンポジウムが知恩院和順会館で開かれた。実行委員会は戦時中の731部隊等、非人道的な行為に対する考察と反省を促すため、医学会総会行事に入れてもらうよう要請したが叶わず、並行開催となった。

この要請に対する日本医学会のスタンスは、元731部隊の主要メンバーが医学会の重鎮でもあった名誉を、傷つけないという思惑が働いていることも推測される。しかし、731部隊の非人道的行為、或いは九州大学におけるアメリカ兵の生体解剖などここで詳しく述べられないが、いかに戦時の異常な環境の中にあつたとしても、人間として決して許されない行為を、日本政府と医療界が反省も無く過去を隠蔽し、不問のままやり過ごしてきたことは許されないことである。医療に携わる者は勿論の事、政治家も国民も確かな情報を共有することが、今一番求められる。これらの事実を知る生き証人は殆どいなくなつてしまった今、この問題を風化させてはならない。

731部隊の非人道的行為の実行者が、何故不問にされ、免罪符を与えられたのか大いなる疑問であつたが、731部隊による資料を独占したいという米軍の圧力でなされたことに他ならない。これにより、以後日本政府も医療界もこの問題は今日までタブー視してきた。この米軍の意図は、東京裁判において731部隊には一切触れず、九州大学での生体解剖に一度死刑判決が下され、後に恩赦となつたことから推察できる。

この他にも知って驚く事実として、731部隊で主導的に働いたメンバーが戦後日本各地の帝大の医学部教授や、学長として医学会に君臨してきたことである。また、731部隊の石井四郎隊長の片腕として働いた内藤良一は、後にエイズ血液製剤の問題を起こしたミドリ十字を設立（これも朝鮮戦争に際し血液を必要とした米軍の要請によるものと言われている）し、そこに多くの731部隊関係者が参加している。医学者が関与する兵器は生物兵器（細菌爆弾等）のみならず化学兵器（イペリット等）、そして物理的兵器（核兵器等）があり、今後も医学者にはいろいろな形で非人道的兵器にまつわる誘惑が待ち受けていることを考慮しない訳にはいかない。

今年の4月21日ベルギーのイーペルで化学兵器禁止機関（OPCW）がOPCW加盟国による記念会合を開き「全人類のため化学兵器の使用の可能性を完全になくす決意を再確認する」と「イーペル宣言」を発表した。これはちょうど100年前の1915年4月22日ドイツ軍がフランス軍に大量の塩素ガス攻撃を加え多数の死者を出したことによる。その後、1917年再びドイツがマスタードガスを使用し、イーペルという地名に因み「イペリットガス」と呼ばれるようになった。現在もおシリア等の戦闘地域で塩素ガス等が使用されたとの情報もあり、また、アメリカでは炭疽菌のばらまき事件など記憶に新しい。化学兵器、生物兵器、核兵器など非人道的兵器の使用にはますます監視の目が必要であり、医療に携わ

る者は先頭に立って反対すると同時に、決して兵器製造に関与してはならない。

過去の医学者が関わってきた非人道的行為を何故行ったのか、何故行わなければならなかったのか、その事実を検証し、反省をしなければ医の倫理を語ることはできないし、繰り返される非人道的行為を根絶することはできない。最後に、731部隊が行った非人道的行為は、決して「戦争犯罪」ではなく「医学犯罪」であったことを認識しなければならない。